

南禅寺の家

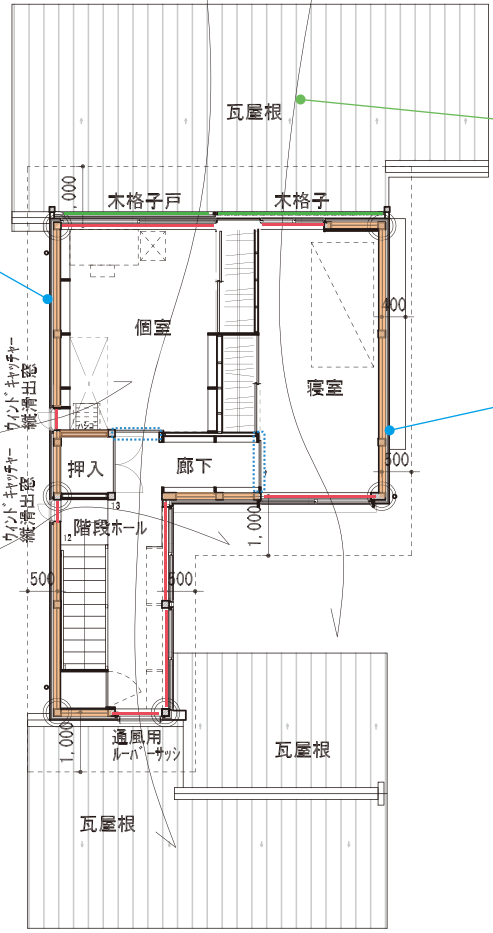
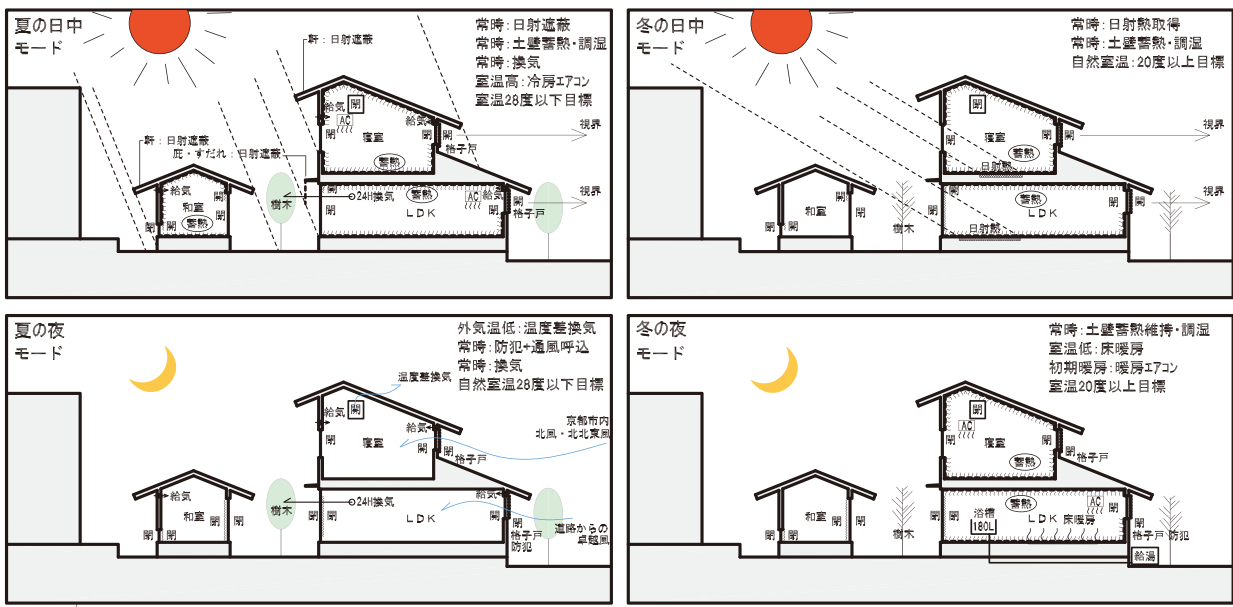
建築場所 京都市左京区南禅寺付近
用途 一戸建て住宅
階数 2階建て
構造 木造(在来工法)

敷地面積 150.57㎡
建築面積 60.20㎡
延べ面積 90.25㎡

設計コンセプト、アピールポイント

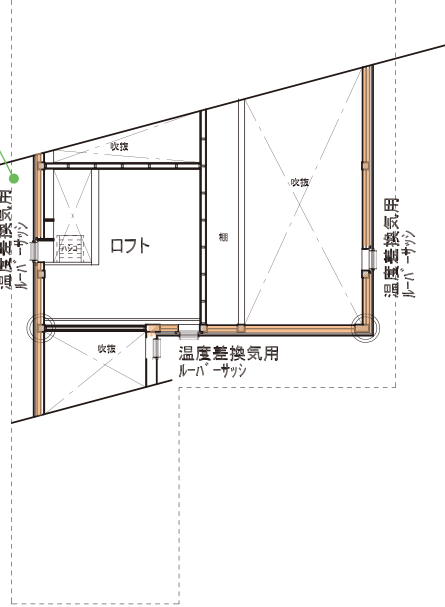
南禅寺の家は、京町家の知恵と省エネルギーを追求した「現代における土壁の家」です。土壁が採用される軒数が減っていきな、左官職人の腕を活かせる仕事をつくるため、工期とコスト、断熱・気密方法等のデメリットを改善しています。
「現代の土壁の家」の土壁仕様を普及させることで、

地場の多くの左官職人の仕事につなげることができればと考えています。土壁の持つ性能を発揮できるように整理整頓しつつ、集熱、断熱・気密、熱容量の3要素をバランスよく保ちながら、省エネルギー性が可能な住まいを目指しました。



自然からつくる
風を取込む建具配置

大切に使う
通気層の採用

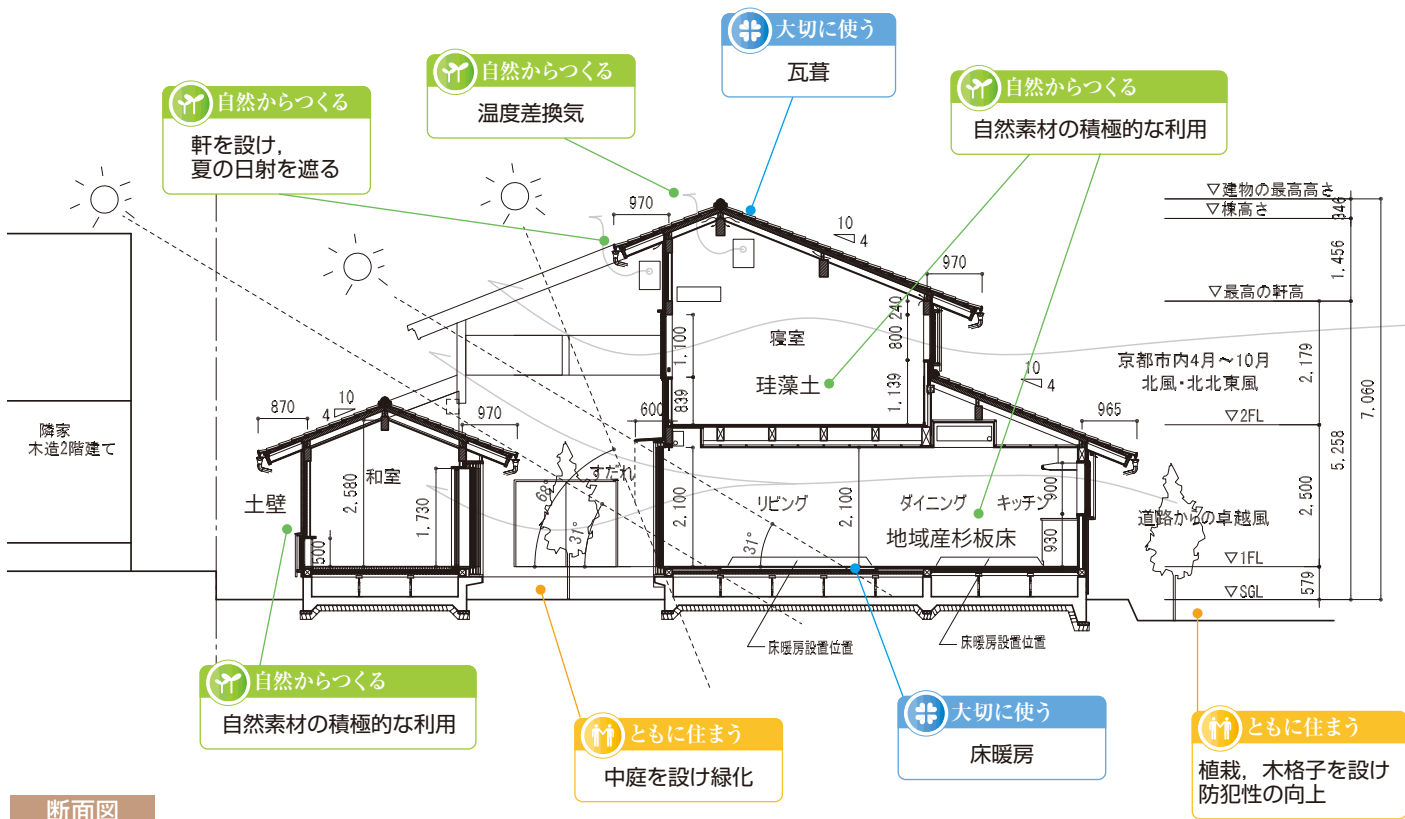


- 蓄熱部を示す
- 2面採光の開口部を示す
- 1面採光の開口部を示す
- 日射遮蔽装置を示す
- 通風に有効な建具を示す



外観写真

庭から和室を望む



断面図

採用技術

1. 軒や庇による外壁の保護

軒を1m, けらばを50cm出し、外壁面や木格子、戸袋、建具の保護を行っています。

2. 自然素材の積極的な利用と伝統的な工法の採用

断熱と防火性能を兼ね備えた土壁を外壁に採用しています。その他、畳や障子、木製建具を使い、壁、天井は珪藻土の塗り壁としている。床は、無垢の赤身無地の地域産木材の杉板を使用しました。

3. 自然環境の利用（日射の調整）

軒と庇、Low-E ガラスでの日よけを基本とし、中庭に落葉樹を植え日差しを遮っています。東面は、障子戸や隣家の塀・樹木により日よけを行っています。

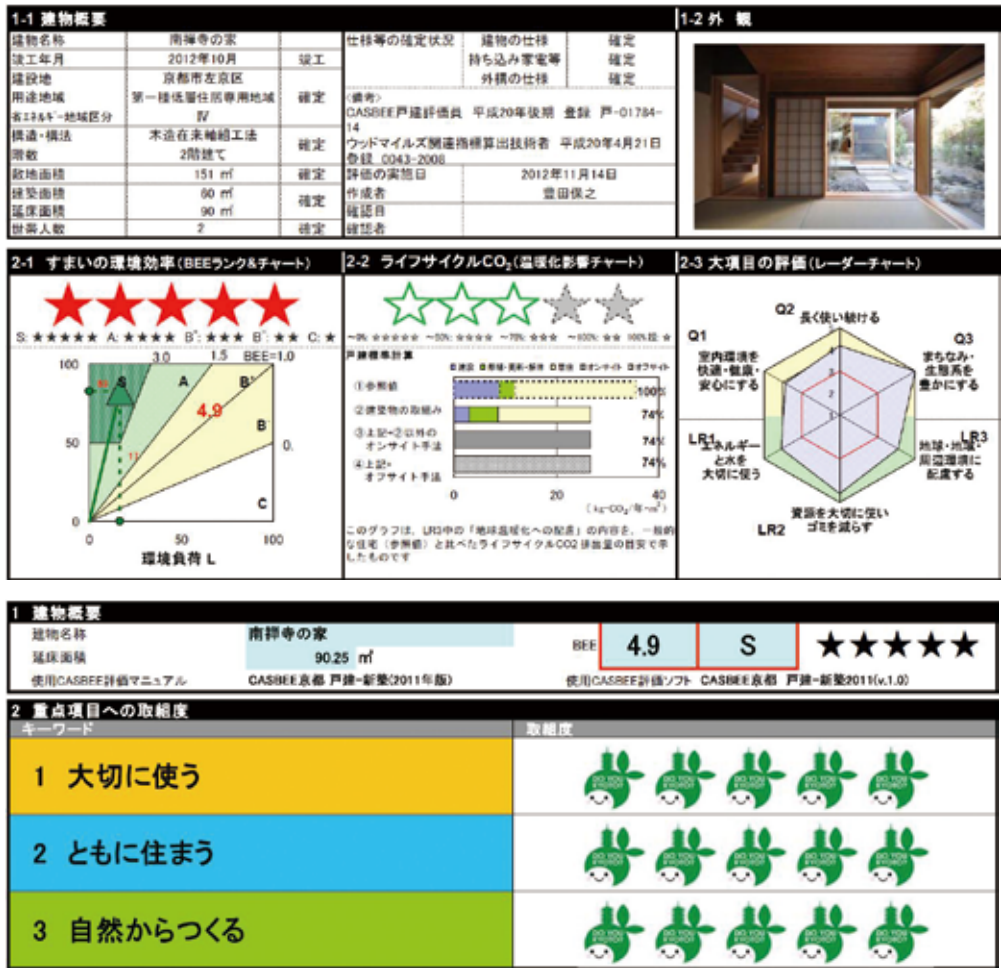
4. 自然環境の利用（風の取り込み）

1 階は、道路からの卓越風を樹木や隣家の塀により、家の中へ取り込んでいます。2 階は、4 月～10 月に吹く京都の北風を通しています。風を取り込む北面は、防犯しながら通風が可能なように、格子戸と格子を設けています。

5. 自然環境の利用（熱気を逃がす）

1 階の北側開口部（キッチン）より、格子戸で防犯しながら通風を促進させ、寝室と廊下、個室に設けた高窓から排出できるように計画しています。

CASBEE評価



京都まちなかこだわり住宅

建築場所 京都市東山区三条通白川筋付近
用途 専用住宅
階数 地上2階 + ロフト
構造 木造

敷地面積 122.00㎡
建築面積 71.50㎡
延べ面積 131.30㎡
高さ 7.446m

設計コンセプト、アピールポイント

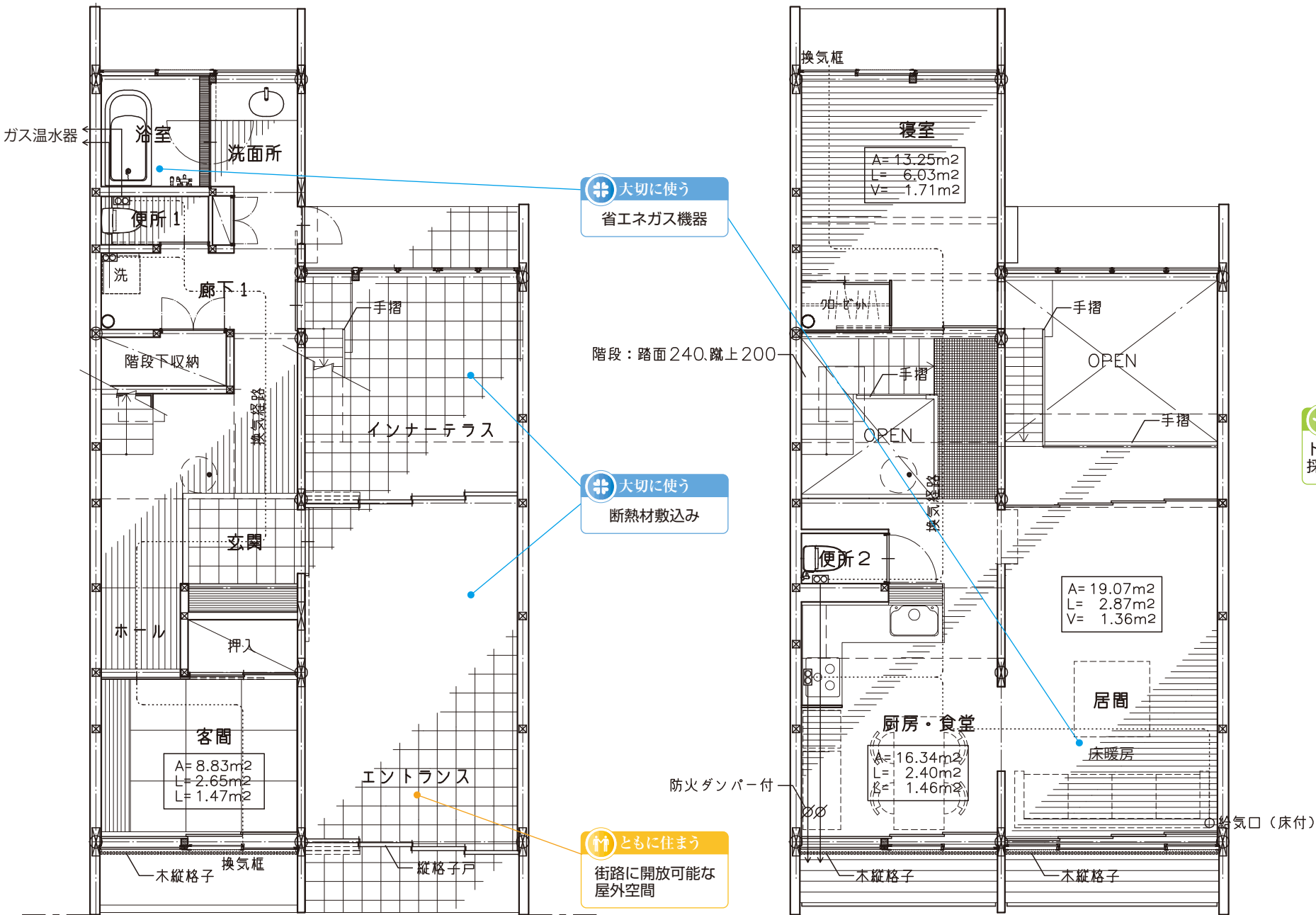
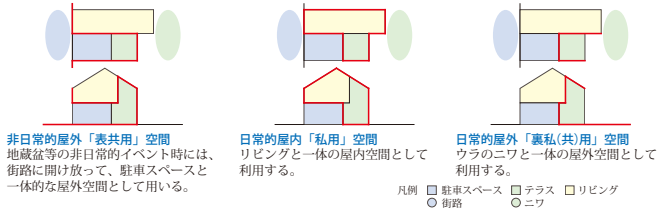
京都まちなかこだわり住宅は、現代という時代の京都という都市に相応しい一般的な住宅のモデル構築を主題としています。木造建放しスケルトン・インフィルによる、建築物の長寿命化・少環境負荷・地域・歴史伝統・景観等に配慮した環境配慮建築となるよう心がけました。

1. 自然環境・エネルギーを積極的に活用した建築
2. 都市・地域の持続可能性へ寄与した建築
3. 歴史性に配慮し、景観・環境に寄与する建築
4. 可変性・更新性による長寿命化を計られた建築
5. 環境負荷の少ない地域産木材を活用した建築

■テラスによる公共私空間の取り方

表共用空間：普段モータリゼーションに支配されているオモテ街路は、非日常の舞台でもある。地藏盆に加えて、街路を舞台とした新しいイベントの創出により、人を呼び込み、街の活性化を図る。

裏共用空間：ウラのニワは日常的な生活の場である。そこは建設時は私有地であり、そこでは子どもが遊び、洗濯物が干される。露出した日常生活が隣地のそれと接触し合い、隣地との垣根が低くなることで共用地に変容していく。



1階平面図

2階平面図

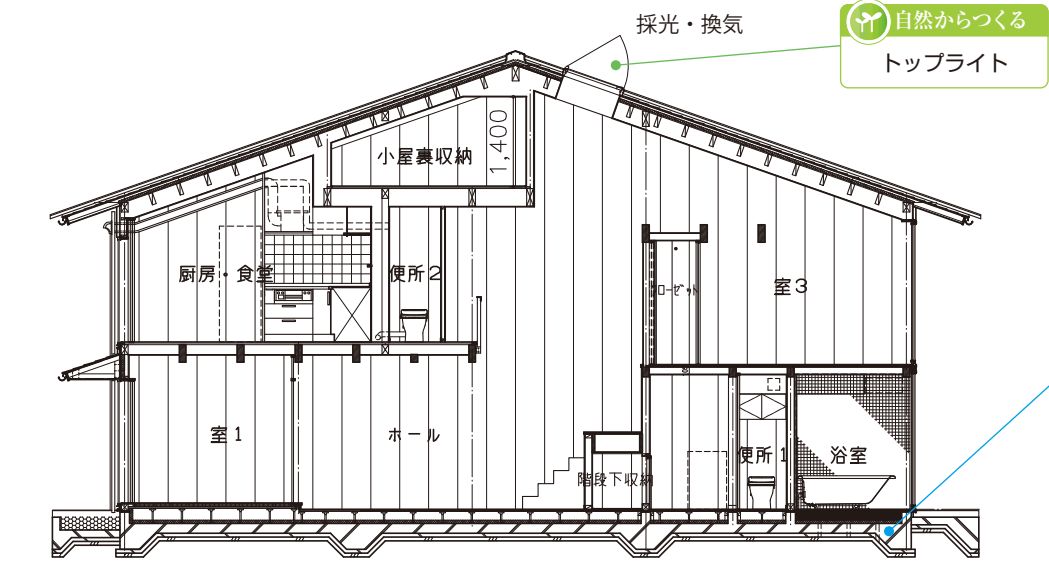
ロフト平面図



外観写真



ウラのニワから望む



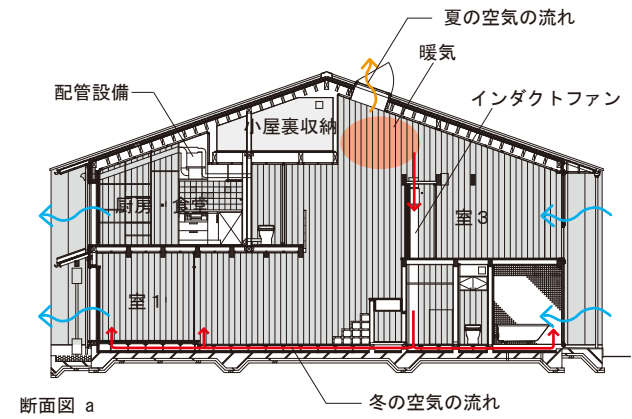
断面図

大切に使う
・床下防湿措置
・床下換気：外断熱仕様により、
床下換気口を設けず、内部で
空気をまわす

採用技術

■クロスベンチレーション／空気の流れを平面と断面とで計画

夏：吹抜け上部に溜まった暖気をトップライトから逃がす。冬：インダクトファンを用い、吹抜け上部に溜まった暖気を床下に引き込み、1階各所から放出する。



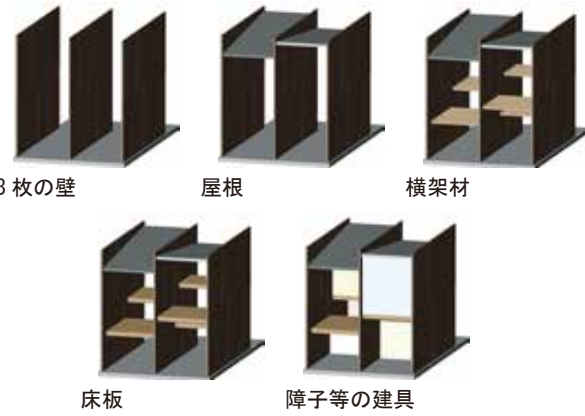
■地産地消

近さを活かして設計者施工者製材所協働で木材流通システムを合理化し、中央の壁（集成材）を除くほぼすべての木材に京都産材を使用。

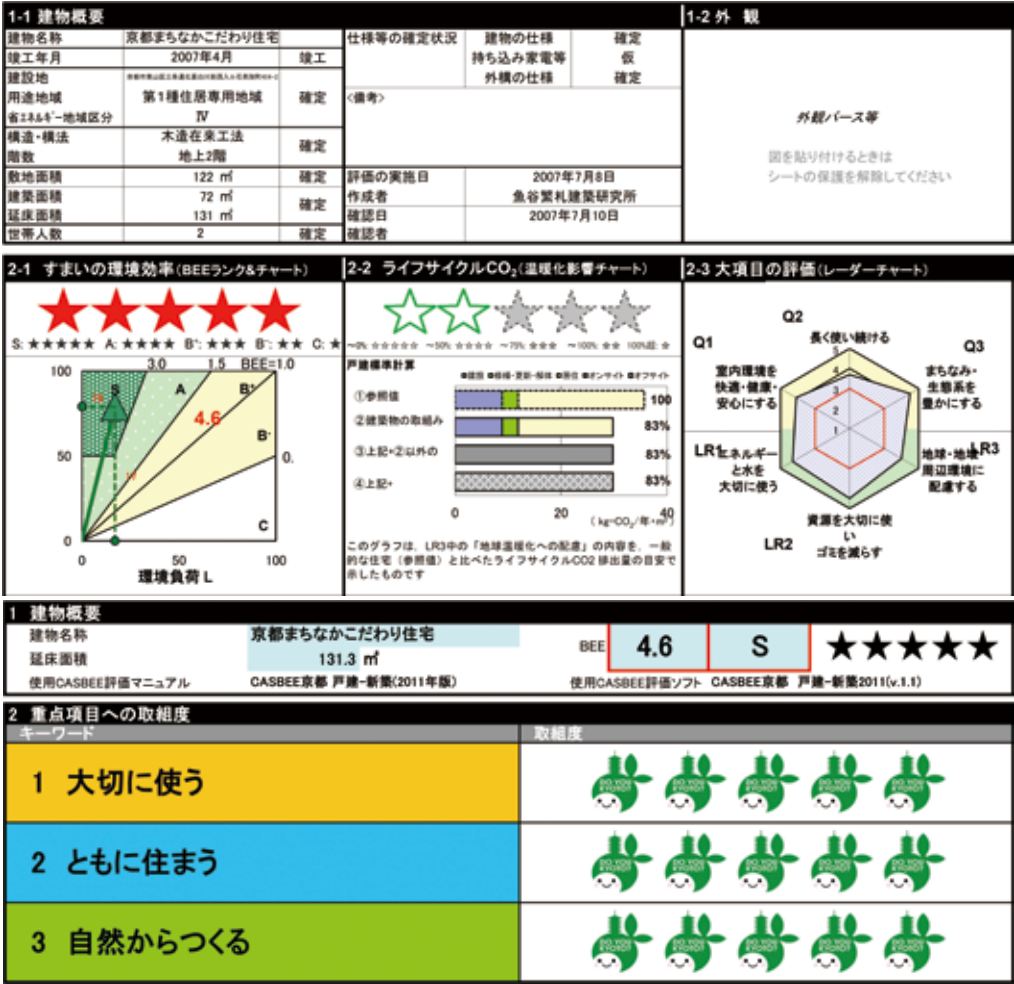
■木造 SI（スケルトン・インフィル）

敷地形状に応えた空間構成（3枚の壁・床・建具）によって、住まい方にフレキシビリティが与えられる。

- ①自由な床の架け方により、自由な初期プランニングが可能
- ②建具の開閉・取外し・相互取替えが容易であり、季節や用途に応じた空間利用が可能
- ③将来の家族構成の変化に応じて、増床・改修・減築が容易に可能



CASBEE評価



紫竹西南町の住宅

建築場所 京都市北区紫竹付近
用途 専用住宅
階数 地上2階
構造 木造

建築面積 59.37㎡
延べ面積 88.63㎡

設計コンセプト、アピールポイント

■自然環境を積極的に活用した建築

既存京町家の特徴である、通り土間や吹抜けなどの「抜け」をつくり、掃出し窓やハイサイドライト、トップライトなど多様な開口によって光・熱・通風といった自然環境を取り込んでいる。また、深い軒庇やデザインされた格子ルーバーにより日射を遮蔽したり、外壁を保護したりと自然環境を取り込むだけでなく抑制し、自然環境を調整し、居住環境を快適化している。

■少環境負荷、古材が活用された建築

既存の梁・柱、外壁などできる限り建築古材を再利用する。

使えるものは使い、替えるべきものは替える。その区分を見極め、中古建具や畳など伝統的に規格化された製品を使いまわすことにより少環境負荷を実現、可変性・更新性による建築部材の長寿命化を図る。

■景観・環境へ寄与した建築

和紙・障子・畳・石・瓦など自然材料の積極的な利用により、和風景観を維持し、環境の持続可能性に寄与する。

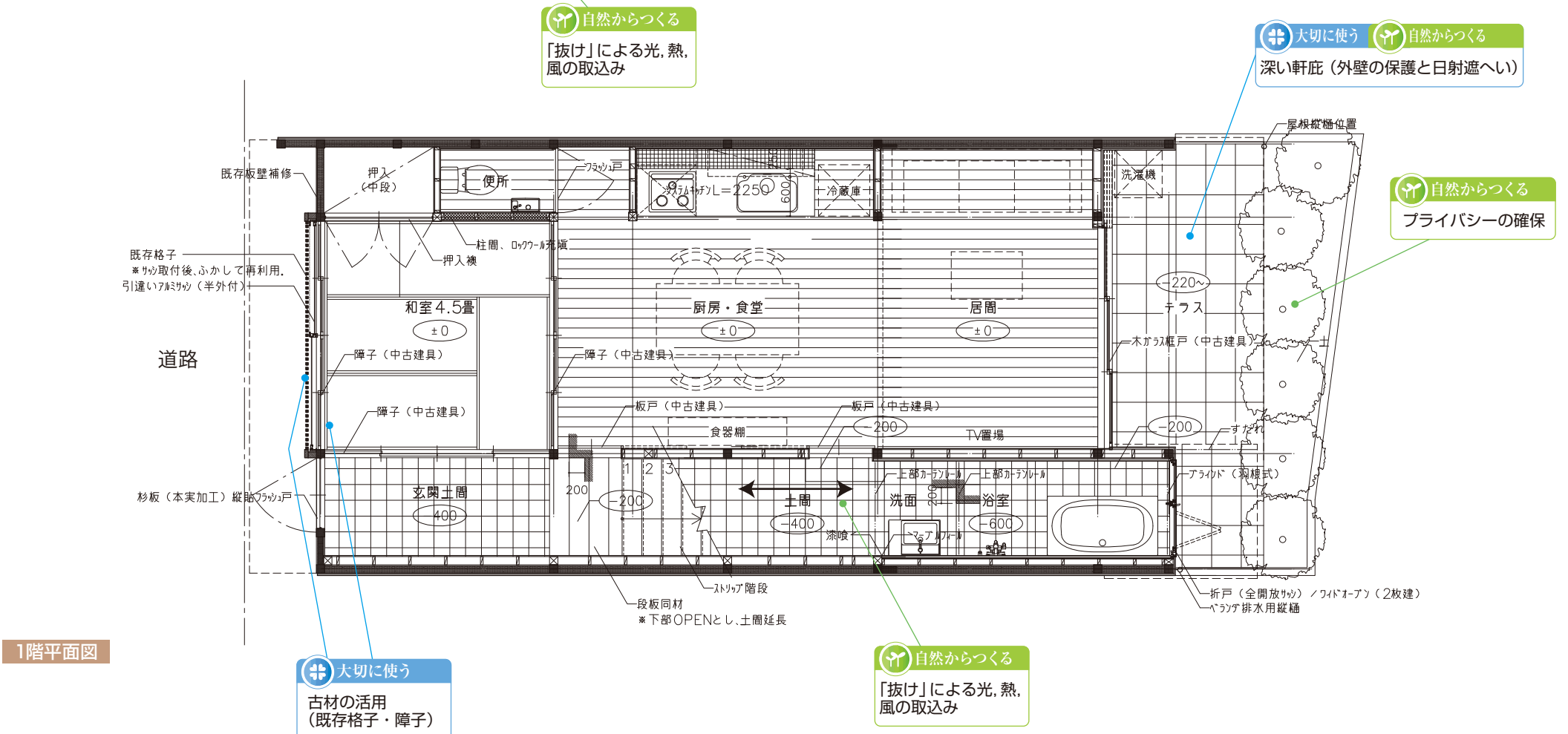
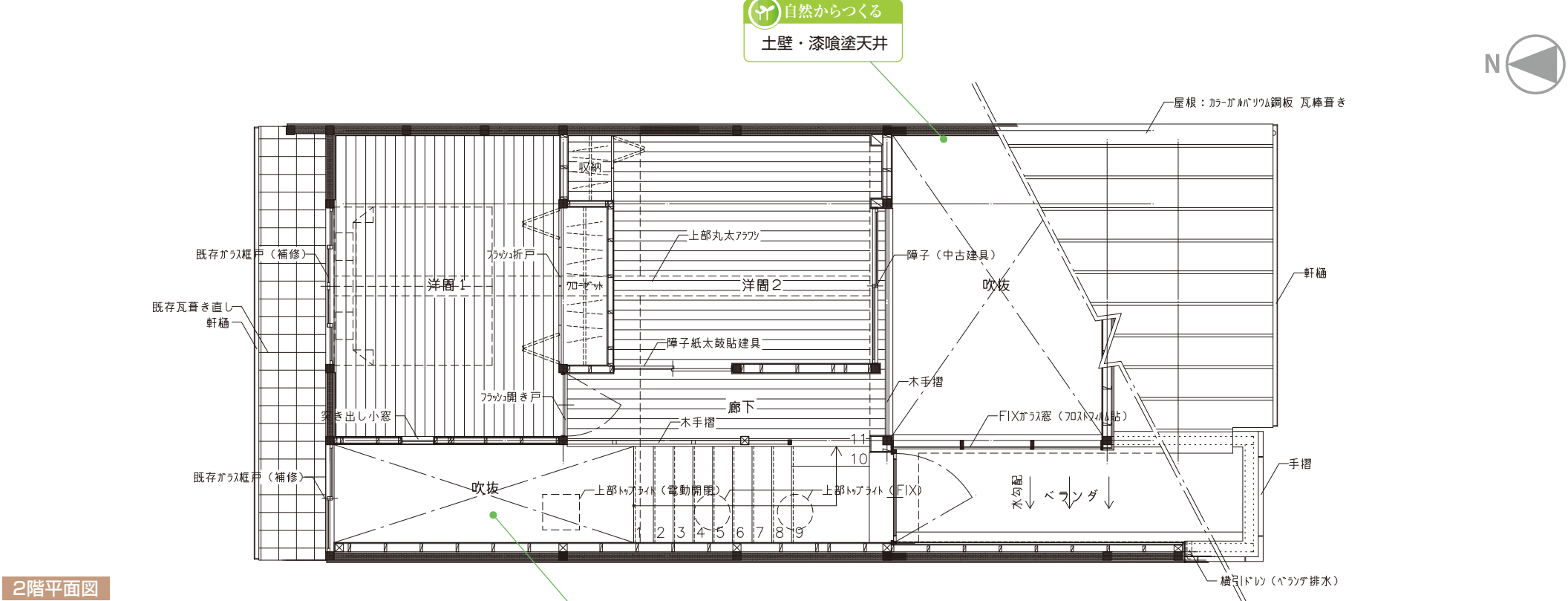
■都市・地域の持続可能性へ寄与した建築

既存建築物を都市資産とみなし、最大限活用することで、街並み・建物・地割・路地などの継続性を担保する。

裏庭や2Fベランダなど植栽により自然環境を維持し、地域に寄与すると同時に、それらはプライバシーを担保する目隠しの役割を果たしている。

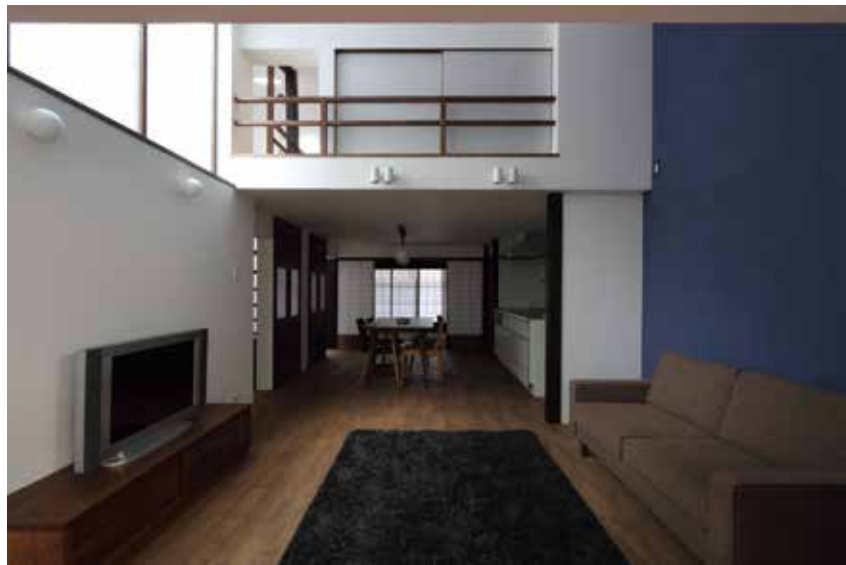
■歴史性を配慮した建築

漆喰など左官技術等の伝統的な工法を採用し、表具・畳など職人による製品の利用で伝統技術を維持する。





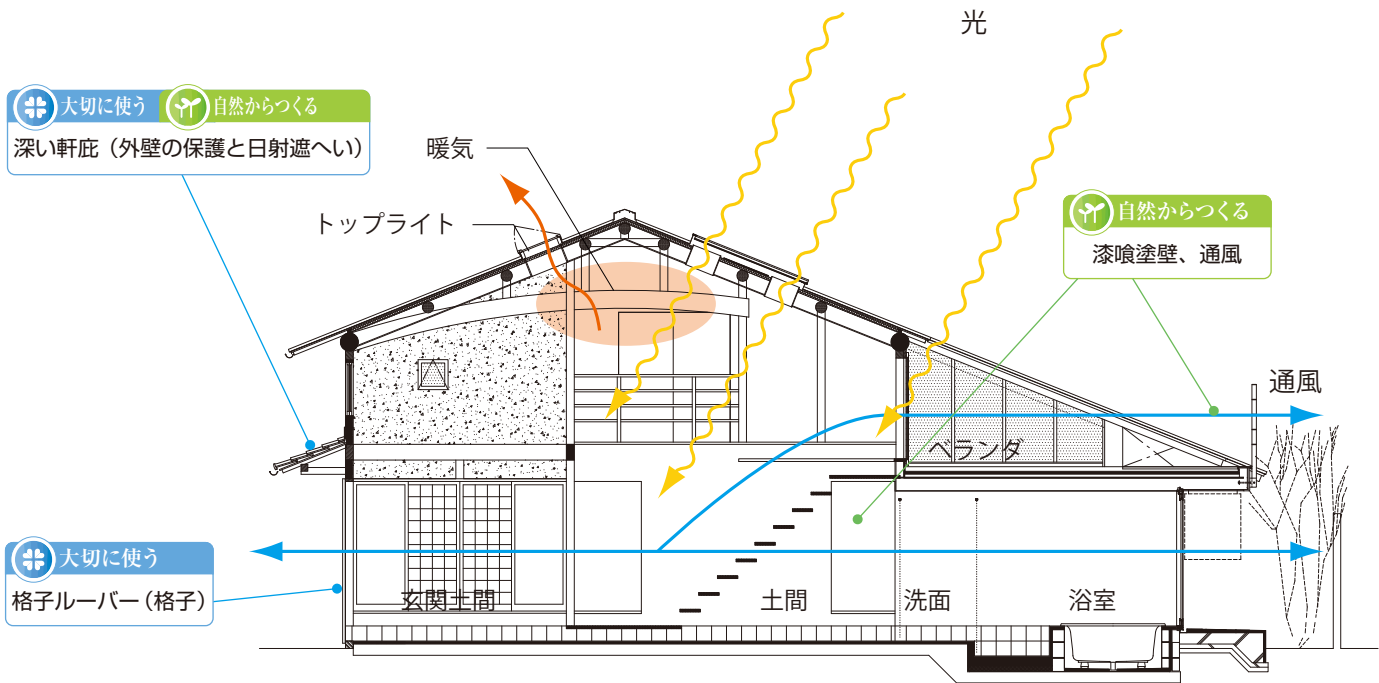
外観写真



居間



土間まわり

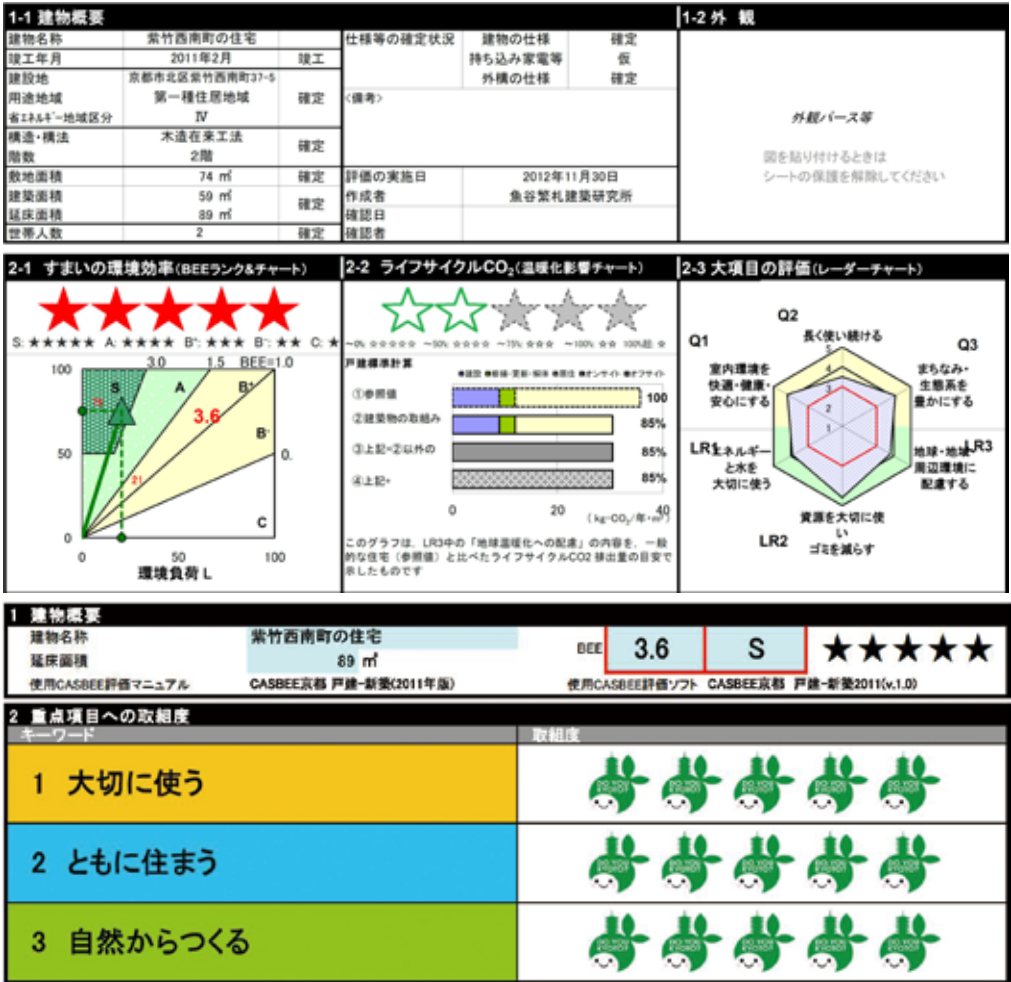


断面図

採用技術

- ①既存京町家の特徴である、通り土間や吹抜けなどの「抜け」をつくりました。
- ②掃出し窓やハイサイドライト、トップライトなど多様な開口によって光・熱・通風といった自然環境を取り込んでいます。
- ③深い軒庇やデザインされた格子ルーバーにより日射しを遮蔽。
- ④既存の梁・柱、外壁などできる限り建築古材を再利用
- ⑤和紙・障子・畳・石・瓦など自然材料の積極的な利用
- ⑥漆喰など左官技術等の伝統的な工法を採用し、表具・畳など職人による製品の利用

CASBEE評価



設計コンセプト、アピールポイント

京都の通りと神聖な祈りの空間とをつなぐ
現代の教会建築

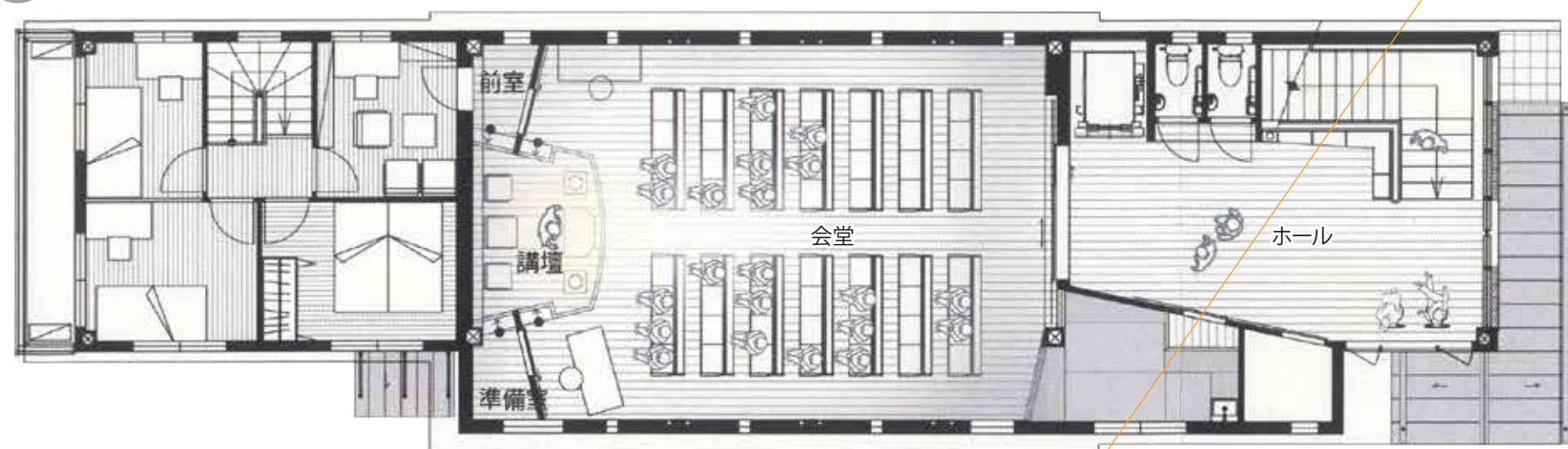
深く延びた庇と格子は、京都のまちなみを形成してきた大きな伝統的要素であるが、現代建築においても変わらずその役割を果たしてくれる。縦格子によって視覚と日射の内外部の連続性を微妙にコントロールし、「地域に開かれた本教会の目標」と「静かな祈りの空間の創出」「開きながら閉じる空間形成」の両立に寄与している。

↑↑ともに住まう

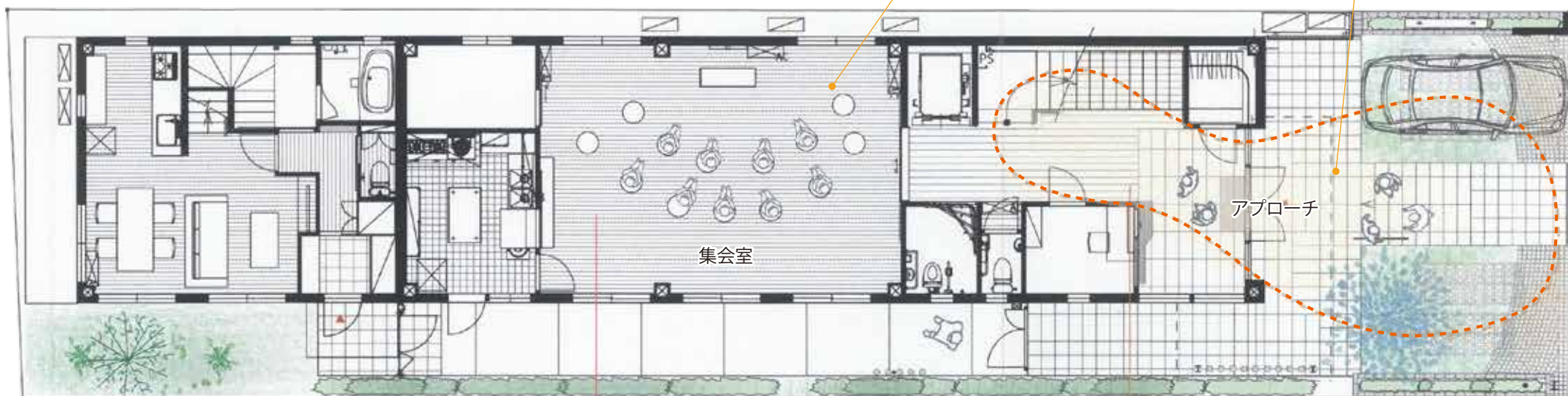
地域・コミュニティへの配慮に関する採用技術例です。



外観写真



2階平面図



1階平面図

建築概要

建築場所	京都市東山区本町付近
用途	教会
建築面積	183.63㎡
延べ床面積	320.68㎡
階数	地上2階
構造	鉄骨造

↑↑ともに住まう

アプローチ部分は前庭として地域に開放されます。また、訪れた人が気軽に集える集会室を設けています。

採用技術

■地域に開かれた社会：「通り」と「広場」

敷地の前面の芝生の広場は駐車場を兼ねながら、路地裏空間のなくなってきた時代に、バザーやマーケット又クリスマスの行事などの地域の住民が集えるポケットスペースを提供している。玄関扉を開放すると内部の集会室ともつながり、心身共にバリアフリーの一体空間となる。



■廻廊へと誘う「木」の列柱

子どもたちの行き交う空間に「無垢の木」としての北山杉の丸太に触れる機会を提供している。



第一回「京^{みやこ}環境配慮建築物」顕彰制度について

趣 旨

京都の建築物は、「木の文化」によって生み出され、「木の文化」とともにあったといえます。京都にふさわしい環境配慮建築物は、そのような文化を形にしたものであり、例えば、高いメンテナンス性に由来する長寿命化、自然環境の積極的利用、周辺環境や地域の歴史性への配慮などが挙げられます。

この度、こうした環境配慮建築物を顕彰することにより、広く市民に情報を発信し、京都にふさわしい環境配慮建築物を普及・啓発することを目的として、平成24年度に京都市環境配慮建築物顕彰制度（「京環境配慮建築物」顕彰制度）を創設しました。

選考要件

京都にふさわしい環境に配慮した建築物として、以下の内容に代表されるいずれかの取組がなされた京都市内の建築物であること。

- ・軒や庇による外壁の保護、可変性・更新性による長寿命化が計られている
- ・環境負荷の少ない地域産材、古材の活用されている
- ・周辺環境や地域・コミュニティ、既存の自然環境への配慮による都市・地域の持続可能性へ寄与している
- ・歴史性へ配慮している
- ・自然材料の利用による景観・環境へ寄与している
- ・自然環境・エネルギーを積極的に活用している
- ・その他環境に配慮している、または環境配慮に寄与する運用上の工夫をしている

また、CASBEE京都（もしくはCASBEE全国版）の評価も参考にしています。

対象となる建築物

京都市内の建築物で、平成19年4月1日から平成24年11月30日までに新築、増築又は改修の工事が完成した建築物（法令に適合するもの）。

なお、公募による応募案件と、延べ面積2,000㎡以上の新築、増築について義務付けられているCASBEEの届出済案件から一定以上の環境性能を備えて完成したものを顕彰対象候補としています。

募集・顕彰の流れ

募集期間：平成24年10月1日～ 11月30日

受賞建築物の発表：平成25年2月6日

顕彰対象候補数：37件（応募14件、CASBEE届出済案件23件）

審査選考：「京都市環境配慮建築物選定委員会」（委員6名）において選考

CASBEE 京都(京都市建築環境総合性能評価システム)とは？

京都にふさわしい環境配慮建築物を総合的に評価するための基準（ものさし）です。
「大切に使う」「ともに住まう」「自然からつくる」の3つのキーワードに基づいた、京都で特に重要としている環境配慮への取組はもとより、省エネルギー、耐久性、室内の快適性、騒音振動防止など全国一般的な環境配慮の取組についても、それぞれの項目をレベル1～レベル5までの5段階で評価できるようになっており、また、すべての項目の評価を集計しその建築物全体の総合評価としてCランク、Bーランク、B+, A, Sの5段階で評価できるしくみになっています。
さらに、京都で特に重要としている環境配慮への取組（重点項目）のみを取り出して、3つのキーワードごとに集計して5段階評価ができるしくみも備えており、このCASBEE京都を市民の皆様、建築関係事業者の皆様が、さまざまな場面で慣れ親しみ、御利用いただくことによって、京都の自然や歴史、景観を大切にしながら暮らす知恵を生かした、環境にやさしい快適で住みやすいまちづくりを目指しています。
※CASBEEは、（財）建築環境・省エネルギー機構が開発した、建築物の環境性能を総合的に評価し5段階に格付けする全国一律で使用されるシステムですが、CASBEE京都は、そのシステムをベースに、京都らしさの評価ができるよう見直しを加えたものです。

受賞建築物

(1) 最優秀賞

建築物名称	用途	延べ面積	CASBEE 評価結果					
			評価 ※1 システム	BEE	ランク	大切に 使う	ともに 住まう	自然から つくる
龍谷大学 龍谷ミュージアム	博物館	4,441.93㎡	全国版	2.2	A ☆☆☆☆	-	-	-

- 【主な取組】
- ・セラミック素材の簾状構造物を外壁に設け、京都らしい外観とすると同時に、日射遮蔽効果と、壁面と簾との間で気流を逃がす効果で空調負荷を削減
 - ・地域に開放したピロティ、敷地内の東西通り抜け通路を設置
 - ・通り抜け通路に打ち水装置
 - ・床吹出空調による良好な温湿度環境

(2) 優秀賞

戸建住宅新築部門

建築物名称	用途	延べ面積	CASBEE 評価結果					
			評価 システム	BEE	ランク	大切に 使う	ともに 住まう	自然から つくる
南禅寺の家	住宅	90.25㎡	京都版	4.9	S ☆☆☆☆☆	5	5	5

- 【主な取組】
- ・軒庇による外壁の保護、間取りの可変性や設備の更新性による長寿命化
 - ・地域産木材、古材の活用、土塗り壁等の自然素材の積極利用
 - ・大きな開口や落葉樹の植樹による自然環境、エネルギーの積極的利用
 - ・近隣住宅の樹木と連続した庭造り
 - ・平成の京町家認定住宅

一般建築物改修部門

建築物名称	用途	延べ面積	CASBEE 評価結果					
			評価 システム	BEE	ランク	大切に 使う	ともに 住まう	自然から つくる
京都市立朱雀第四小学校	小学校	5,436.00㎡	全国版 ※2	1.6	A ☆☆☆☆	3	5	5

- 【主な取組】
- ・既存校舎を連絡する渡り廊下の改修で、一体的に環境調整空間を整備
 - ・駐車場を「いのちの庭」として整備。地域住民やPTAも積極的に関わり、地域コミュニティの場とする。
 - ・地域産木材の積極的採用
 - ・屋上緑化
 - ・太陽光発電システム（最大出力3kW）の導入
 - ・雨水貯留槽の設置

戸建住宅改修部門

建築物名称	用途	延べ面積	CASBEE 評価結果					
			評価 システム	BEE	ランク	大切に 使う	ともに 住まう	自然から つくる
紫竹西南町の住宅 日射し（庇）の家	住宅	89.00㎡	京都版	3.6	S ☆☆☆☆☆	5	5	5

- 【主な取組】
- ・古材が活用され、環境負荷を削減した建築
 - ・既存建築物を最大限利用することで、まちなみ・地割などの継続性を担保する
 - ・自然素材の積極的な利用による、景観・環境、歴史性への配慮
 - ・通り土間や吹き抜け、高所に設けられた窓や屋根に設けられた天窓などにより、採光や通風を取り入れる工夫

(3) 特別賞

建築物名称	用途	延べ面積	CASBEE 評価結果					
			評価 システム	BEE	ランク	大切に 使う	ともに 住まう	自然から つくる
凌風学園	学校	16,053.65㎡	全国版	4.5	S ☆☆☆☆☆	-	-	-

- 【主な取組】
- ・外壁に格子状構造物の設置による周辺景観との調和
 - ・光と風の庭(エコボイド)による共用部への昼光利用及び通風の確保
 - ・太陽光発電システム(最大出力10Kw)の導入
 - ・屋上緑化
 - ・地域産木材の利用

※1 CASBEE評価システムについて
全国版：CASBEE新築（簡易版）
京都版：CASBEE京都-新築あるいはCASBEE京都 戸建-新築

※2 CASBEE学校-改修で評価
（重点項目の取組についてはCASBEE京都-改修で評価）

環境配慮建築物に関するお問合せは

京都市 都市計画局 建築指導部 建築審査課

〒604-8571 京都府京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
075-222-3616(直通)